

B-V-3

遷延性意識障害患者の陥入爪の現状と看護ケア

自動車事故対策機構 千葉療護センター看護部

○中尾 未久, 今井 里織, 佐藤 静, 中野 美奈子, 山田 千代美,
小嶋 昌子, 吉沢 純子,

【目的】遷延性意識障害患者の足の陥入爪の現状を把握し、爪ケアの改善を検討する。

【方法】千葉療護センターの遷延性意識障害患者50名の陥入爪について観察調査を元に、陥入爪の原因と考えられる身体要因と生活・習慣要因の項目を比較検討した。項目は陥入爪の有無・入院期間・年齢・受傷後経過年数・受傷前の陥入爪の有無・爪白癬・皮膚科受診回数・母趾の皮膚温度・栄養と検査データ、入院前後の入浴と足浴回数・靴と靴下の種類と装着時間・車いす乗車時間・足への加重(装具やリハビリ内容)。また健常者における陥入爪の有無との比較も行った。

【結果】当センターにおいて、陥入爪のある患者は15名(30%)であった。15名中、炎症を生じたのは6名であり、入院時に炎症を起こしていた事例が入院後に改善するケースもあった。しかし、調査中には炎症を生じていた事例はなかった。陥入爪のある患者と非陥入爪患者の、身体要因と生活・習慣要因との比較では、差をあらわす結果は明らかではなかった。健常者の陥入爪の有無は50人中10名(20%)であった。

【考察】遷延性意識障害患者の足の爪に、陥入爪が多い印象があり、調査した30%の患者に陥入爪が認められたが、健常者との比較において、統計的に有意差はなかった。しかし、陥入爪は、炎症を起こしやすい。そこで、その原因を調査し、項目の特定はできなかったが、入院時及び、入院中の炎症改善した事例では以下の3点がわかった。1. スクエアカット 2. 陥入爪のテーピング 3. 足浴等による看護ケア、であり、陥入爪のある患者の炎症は、きめ細かな看護ケアで予防出来るのではないかと考える。